

2026年7月

## 米国株相場展望

～決算本格化で業績相場を再確認、堅調持続を想定～

2026年6月30日

・6月の米国株相場は高値波乱の展開。スペースXのIPO等のイベントを通じてAI半導体など特定の銘柄の  
 人気集中・短期加熱の商状となり、後半に利益確定売りが急速に進んだ。

・好調な利益成長見通しは足下変わっておらず、まもなく4-6月期決算シーズン入りとなるが、これまでの傾  
 向を踏まえると事前予想を上回る業績が相次ぐ可能性が高そうである。足下の原油価格の低下と共に、期待  
 インフレ率が低下傾向にあり、金利環境が落ち着けば、株式市場に再び勢いが戻ることが想定される。

S&P500指数は予想利益がけん引し、上昇基調継続

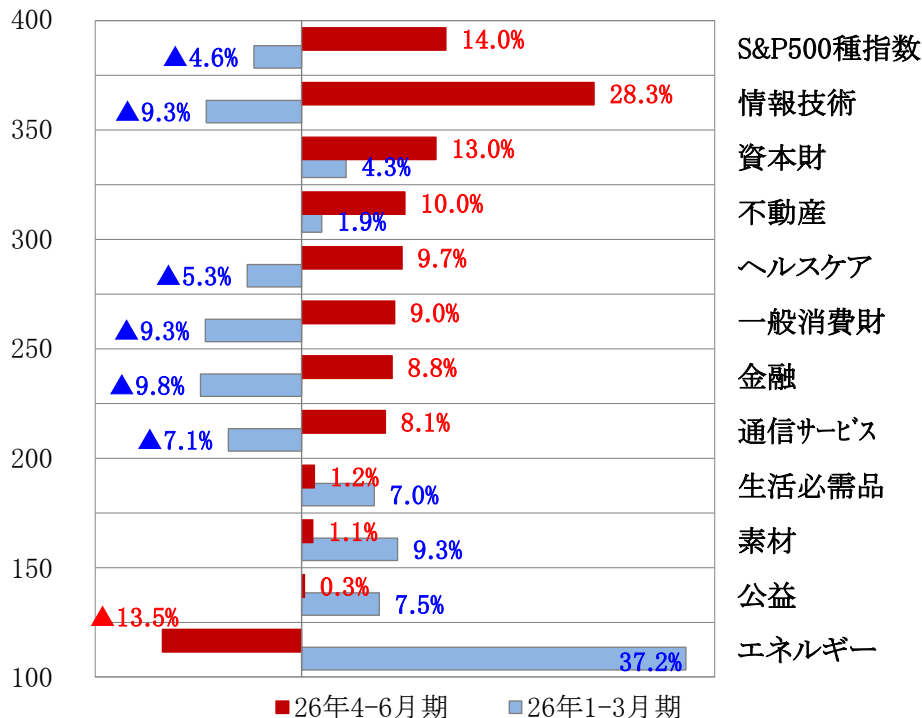
<S&P500指数と予想1株利益(2020年以降)>



各種資料より岩井コスモ証券作成

4-6月期は再び半導体中心にハイテク株がけん引役に

<S&P500種業界別騰落率(26年第1・第2四半期)>



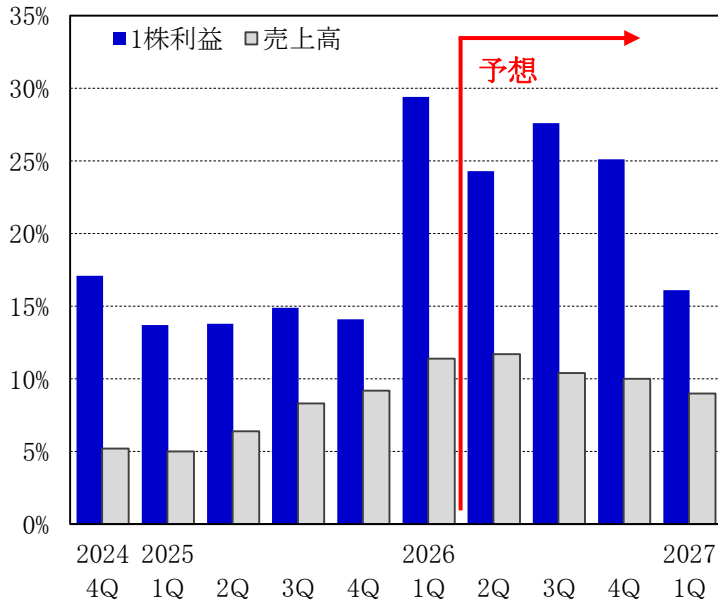
各種資料より岩井コスモ証券作成 注：26年4-6月期騰落率は6月29日時点

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見  
 や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きの  
 ある商品であるため、元本を保証するものではありません。

- ・S&P500構成企業の26年第1四半期(1-3月期)の1株利益は、前年同期比29.4%増(エネルギー業種を除くと同30.8%増)と力強い見通し。続く4-6月期も同24.3%増と高水準の伸びを見込む。
- ・26年通期の1株利益は前年比+26.6%と、前年(+11.8%)から成長ペースが大幅に加速する予想となっている。AIやDXの導入による業務効率化・生産性向上が、企業全体の利益率を押し上げるフェーズへ移行しつつある。現在の強気な業績見通しをさらに上振れさせる強力な原動力となる可能性がある。

順調な利益成長を見込む

<S&P500指数・1株利益と売上高の増減率(前年同期比)>



LSEG (旧リフィニティブ) のデータより岩井コスモ証券作成  
注：6月26日時点

S&P500指数・セクター別1株利益増減率(前年同期比)

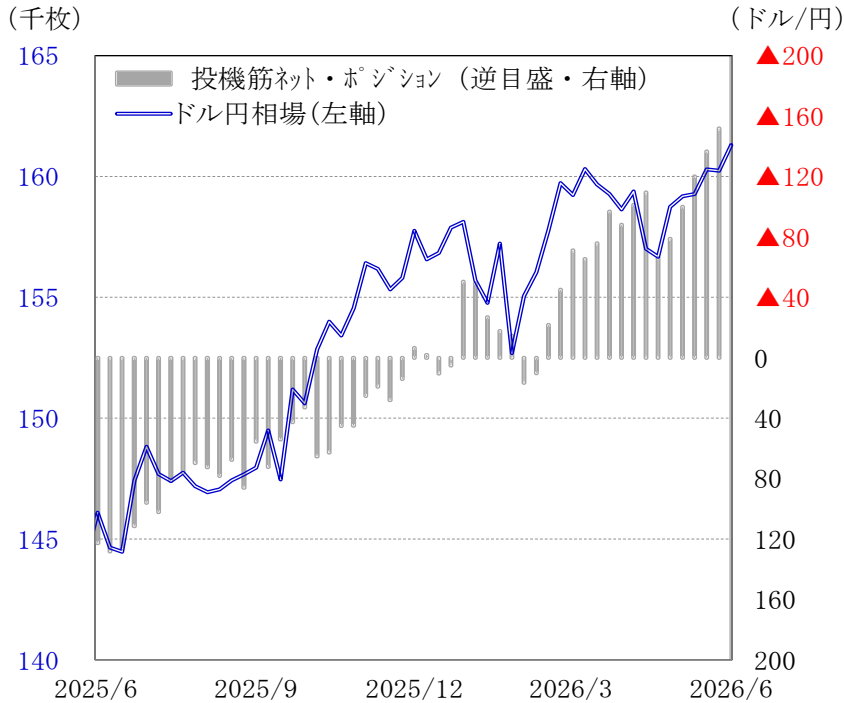
	2026年 1Q	2Q	3Q	4Q	2027年 1Q
S&P500	29.4%	24.3%	27.6%	25.1%	16.1%
消費 (裁量)	40.6%	5.3%	2.7%	14.8%	▲5.5%
消費 (必需)	8.1%	5.0%	6.9%	7.5%	7.4%
エネルギー	▲0.8%	118.0%	80.6%	71.6%	50.2%
金融	24.0%	7.6%	3.7%	9.3%	7.0%
ヘルスケア	▲3.4%	▲9.3%	9.2%	15.5%	19.7%
資本財	10.3%	10.2%	16.0%	4.1%	18.3%
素材	40.7%	32.9%	44.9%	45.6%	21.5%
不動産	16.1%	6.2%	3.4%	4.2%	4.5%
テクノロジー	56.7%	65.4%	58.4%	49.5%	43.5%
電気通信	51.0%	7.9%	51.7%	10.6%	▲20.3%
公益	15.5%	11.9%	7.4%	15.7%	0.6%

LSEG (旧リフィニティブ) のデータより岩井コスモ証券作成  
注：6月26日時点

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

- ・6月中旬のFOMCで、FRBの利上げ姿勢が強まったことを受け、外国為替市場ではドル高が進行、円は対ドルで下落。1ドル160円の節目を超えて円安が進行している(6月22日時点)。
- ・当局の介入の有無が焦点となる中、投機筋は、依然として円ショートを積み増している(下左グラフ)。
- ・1ドル160円は歴史的な節目であり、次の節目としては1ドル180円が意識されよう(下右グラフ)。

投機筋は依然として「円ショート」を積み増す動き



各種資料より岩井コスモ証券作成

1ドル160円は強い節目



各種資料より岩井コスモ証券作成  
注：6月22日時点

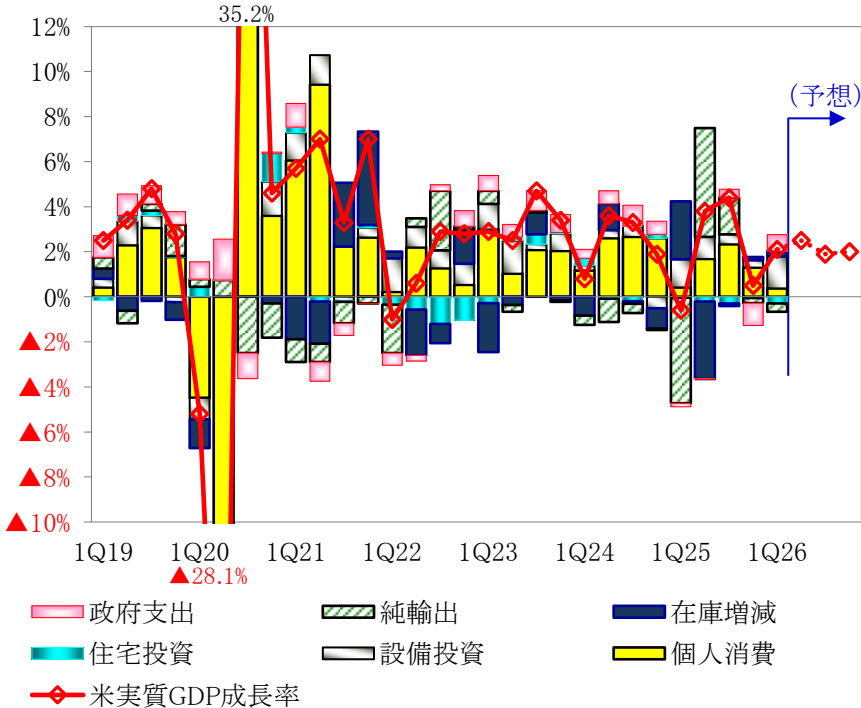
投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

・26年1-3月期の米GDP(確定値)は前期比年率2.1%増(改定値は1.6%増)、家計においては資産効果が続く上位層と物価高に苦しむ下位層とで明暗分かれ「K字型経済」が進む中、消費全体はやや息切れ症状。その一方、企業の設備投資はAI関連投資が大きく寄与する形で成長要因の7割を占めた。

・米企業はAI関連や製造業の国内回帰など、中長期的な成長に向けた設備投資に対して前向きになった結果、実質的なネットの資金調達額は、2022年を底に再び増加基調へ転じている。

## 米経済は企業投資が下支え要因に

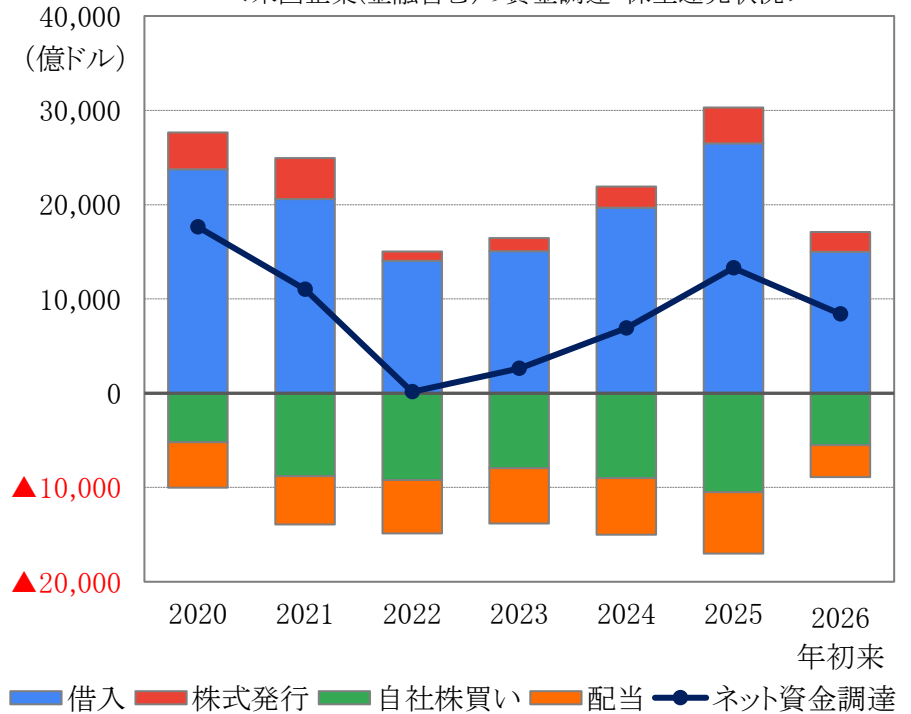
<米実質GDP成長率と需要項目別・寄与度>



米商務省等・各種資料より岩井コスモ証券作成  
注：予想はエコノミスト・コンセンサス(6月29日時点)、四半期データ

## 米企業が設備投資のため資金調達を活発化

<米国企業(金融含む)の資金調達・株主還元状況>



SIFNA、S&P等各種資料により岩井コスモ証券作成  
注：ネット資金調達(借入+株式発行-株主還元額)

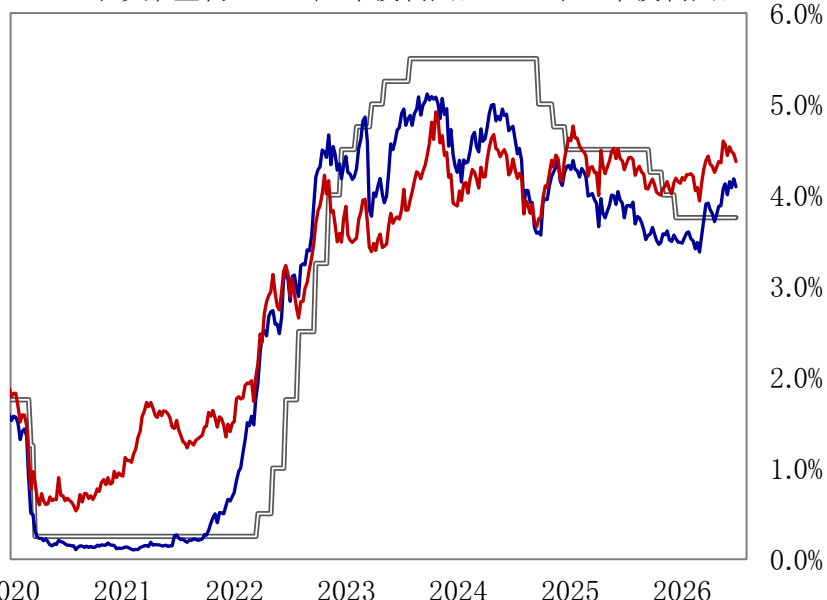
投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

- ・ケビン・ウォーシュFRB新議長は、初のFOMCの記者会見で「物価の安定」を強調。市場は一時年内の利上げ観測を強めた。インフレ率の加速による拙速な利上げというシナリオは、株式市場にとって主たるリスクだがAIが与える影響を含め、物価に対する深い洞察力を持つウォーシュ新FRB議長の運営手腕に期待したい。
- ・ウォーシュ氏はコミュニケーションの簡素化や政策の規律化を志向しており、5つの作業部会を立ち上げ、FRBの組織改革を進めたい考え。データ収集ではリアルタイムデータの活用を検討している。

米長短金利差が縮小、次の政策判断を問う展開

<米政策金利、2年債・10年債利回り>

— 米政策金利 — 米2年債利回り — 米10年債利回り



【2026年FOMC日程(2日目)】 1月28日、3月18日、4月29日、6月17日、7月29日、9月16日、10月28日、12月9日

各種資料より岩井コスモ証券作成

新議長立ち上げの作業部会から本音が推察される

<5つの作業部会を立ち上げ、年末に向け議論する>

作業部会	<上>具体的テーマ <下>ウォーシュ新議長の本音(推察)
コミュニケーション	記者会見や経済見通しの公表方法など見直し 今のFRBはしゃべり過ぎ(提示した予想に縛られる)
巨大化したFRBのバランスシート	国債など保有額のさらなる圧縮 FRBの国債保有は市場の価格形成を歪める
データ収集	リアルタイムのデータ活用 遅行指標では政策運営に使えない
生産性・雇用	人工知能(AI)が経済に与える影響を検証 AIが物価抑制につながっているのでは
インフレ	物価上昇の要因分析 今の物価指標は時代遅れになってないか

各種資料より岩井コスモ証券作成

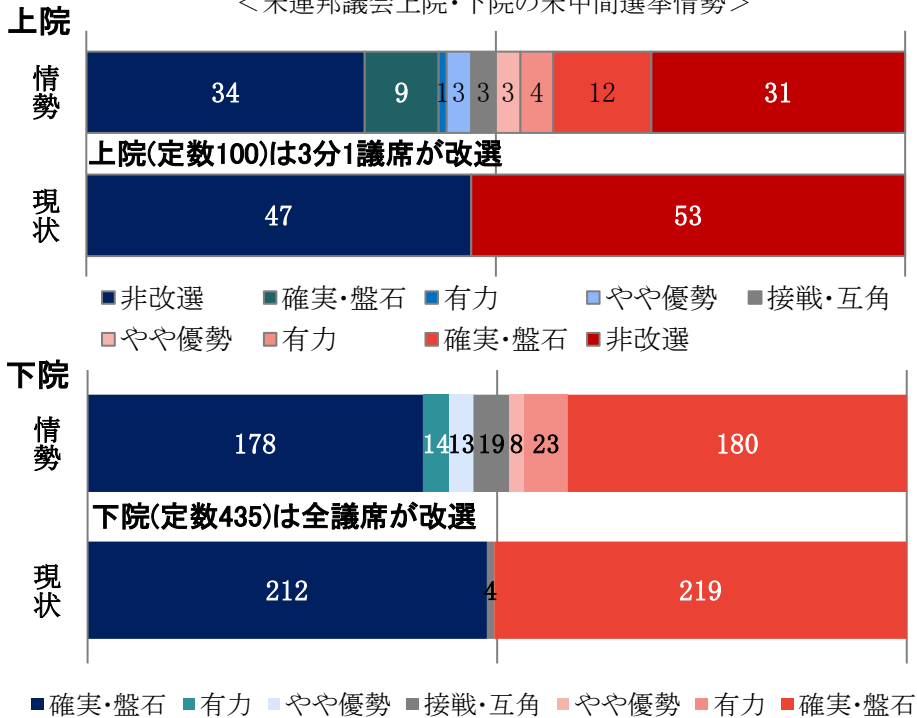
投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

・11月3日の米中間選挙の最大の注目点は議会の主導権争いである。現在の情勢分析では、民主党が下院を奪還する一方、共和党が上院の多数派を維持する「ねじれ議会」の誕生がメインシナリオとされている。

・ねじれ議会下では下院の抵抗により、追加の大型減税や巨額のインフラ投資等の財政出動・国内法改正の成立は困難になり、内政面でのレームダック化は進行する。一方、関税等の通商政策や大統領令を用いた規制緩和では引き続き影響力を維持する公算。過度な歳出急増が抑えられる点は市場の安心材料となる。

議会第1党は上院が共和党維持、下院が民主党奪回か

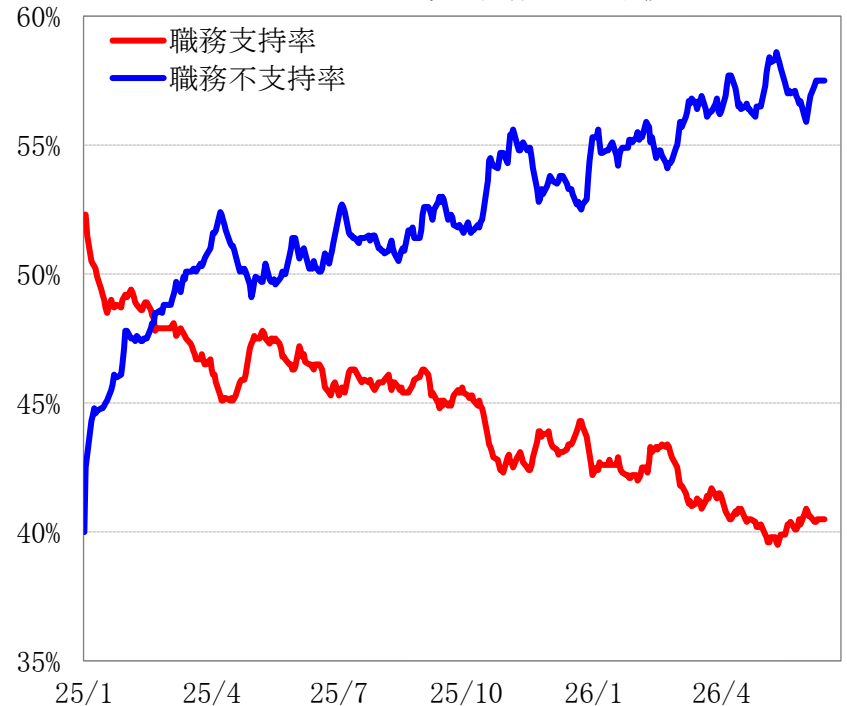
<米連邦議会上院・下院の米中間選挙情勢>



出所：270TOWIN 注：6月28日時点

トランプ大統領の支持率はイラン戦争を経て低迷

<トランプ大統領の職務支持率推移>



出所：Real Clear Politics

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

・2024-26年の世界の時価総額上位企業を比較すると、(1)時価総額1兆超の企業が24年末:9社→26年6月:16社に増加、(2)上位20社に占める半導体企業が24年末:3社→26年6月:8社に増加した点が目立つ。

・「マグニフィセント7」以外の上位グループの呼び名探しが既に始まっている。

<2024年末>		(兆ドル)
No.	企業	時価総額
1	アップル(テクノロジー-機器)	3.79
2	エヌビディア(半導体)	3.29
3	マイクロソフト(ソフトウェア)	3.13
4	アルファベット(インターネットメディア)	2.32
5	アマゾン(電子商取引)	2.31
6	サウジ・アラビアン・オイル(石油)*	1.81
7	メタ・プラットフォームズ(SNS)	1.48
8	テスラ(自動車)	1.30
9	プロトコム(半導体)	1.09
10	ハークシャー・ハサウェイ(保険)	0.98
11	台湾セミコンダクター(半導体)*	0.85
12	イーライリリー(医薬品)	0.73
13	ウォルマート(小売)	0.73
14	JPモルガン・チェース(銀行)	0.67
15	ビザ(特殊金融)	0.63
16	騰訊控股(インターネットメディア)*	0.50
17	マスターカード(特殊金融)	0.48
18	エクソンモービル(石油)	0.47
19	オラクル(ソフトウェア)	0.47
20	ユニテッド・ヘルス(ヘルスクア施設)	0.47

<2025年末>		(兆ドル)
No.	企業	時価総額
1	エヌビディア(半導体)	4.53
2	アップル(テクノロジー-機器)	4.02
3	アルファベット(インターネットメディア)	3.78
4	マイクロソフト(ソフトウェア)	3.59
5	アマゾン・ドット・コム(電子商取引)	2.47
6	メタ・プラットフォームズ(SNS)	1.66
7	プロトコム(半導体)	1.64
8	サウジ・アラビアン・オイル(石油)*	1.54
9	テスラ(自動車)	1.50
10	台湾セミコンダクター(半導体)*	1.28
11	ハークシャー・ハサウェイ(保険)	1.08
12	イーライリリー(医薬品)	1.02
13	ウォルマート(小売)	0.89
14	JPモルガン・チェース(銀行)	0.88
15	騰訊控股(インターネットメディア)*	0.70
16	ビザ(特殊金融)	0.69
17	オラクル(ソフトウェア)	0.56
18	マスターカード(特殊金融)	0.51
19	エクソンモービル(石油)	0.51
20	ジョンソン&ジョンソン(医薬品)	0.50

<26年6月>		(兆ドル)
No.	企業	時価総額
1	エヌビディア(半導体)	4.74
2	アルファベット(インターネットメディア)	4.18
3	アップル(テクノロジー-機器)	4.04
4	マイクロソフト(ソフトウェア)	2.62
5	アマゾン・ドット・コム(電子商取引)	2.44
6	スペースX(宇宙・AI)	2.01
7	台湾セミコンダクター(半導体)*	1.95
8	プロトコム(半導体)	1.80
9	サウジ・アラビアン・オイル(石油)*	1.68
10	テスラ(自動車)	1.41
11	メタ・プラットフォームズ(SNS)	1.38
12	マイクロン・テクノロジー(半導体)	1.37
13	サムソン電子(テクノロジー-機器)*	1.36
14	SKハイニックス(半導体)*	1.36
15	イーライリリー(医薬品)	1.06
16	ハークシャー・ハサウェイ(保険)	1.05
17	ウォルマート(小売)	0.92
18	JPモルガン・チェース(銀行)	0.90
19	AMD(半導体)	0.87
20	ASMLホールディング(半導体)*	0.70

(青色=半導体企業、\*米国以外の企業)

各種資料より岩井コスモ証券作成

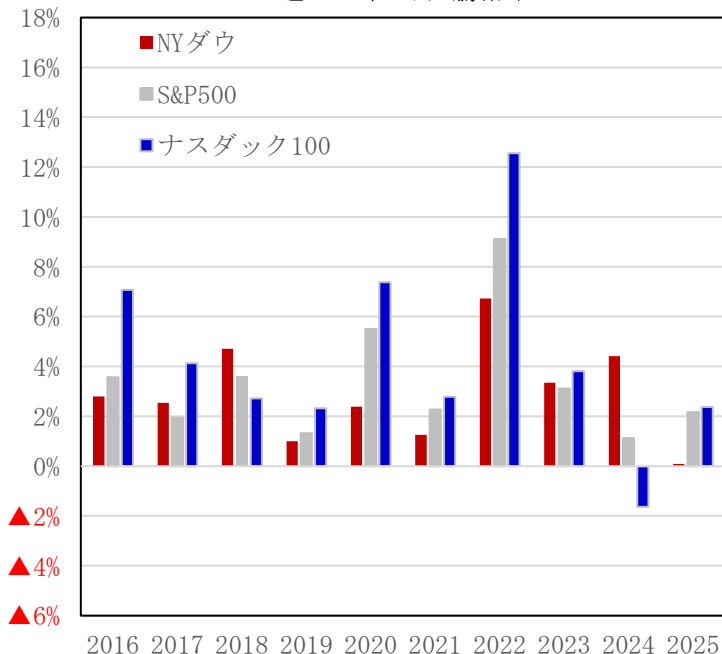
注：26年6月の時価総額は6月25日基準

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

- ・株式市場には、「夏枯れ相場」という言葉があるが、過去10年間の米国株の7月の値動きは良好である。
- ・NYダウ、S&P500、ナスダック100の過去10年の値動きを見ると、2024年にナスダック100がマイナスとなった以外、全て上昇している(下左グラフ)。
- ・SOX指数、ラッセル2000、S&P500バリュー株指数も同様であり、2021年のラッセル2000、2024年のSOX指数以外は全て上昇している(下右グラフ)。

7月は主要指数は強い

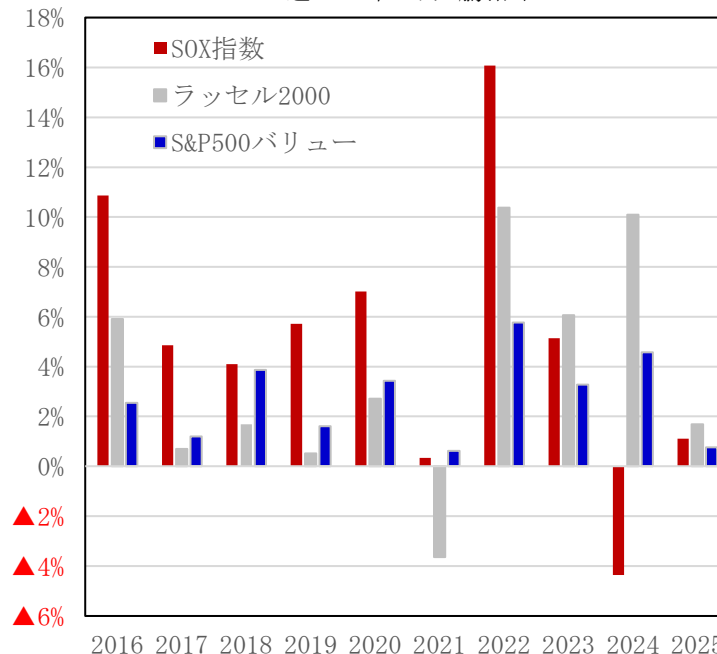
<過去10年・7月・騰落率>



各種資料より岩井コスモ証券作成

半導体株・中小型株・バリュー株も7月は強い

<過去10年・7月・騰落率>



各種資料より岩井コスモ証券作成

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

- ・2026年のナスダック100指数はV字回復後に高値を追う展開で、2020年のチャートパターンとの共通点が多い。当時は新型コロナによる市場混乱後、テクノロジー株の需要が急増し、ナスダック100が急速で回復した。26年は生成AI関連の投資とハイテク企業の好業績が支える形で、指数が高値圏を維持した。
- ・チャート上では、今年は20年のチャートパターンに沿った動き(左下チャート)が続いている。四半期別パフォーマンス(右下表)でも、ほぼ一致した。経験則では、年末まで強い相場が続く可能性がある。

ナスダック100指数  
2020年のチャートに沿った動き

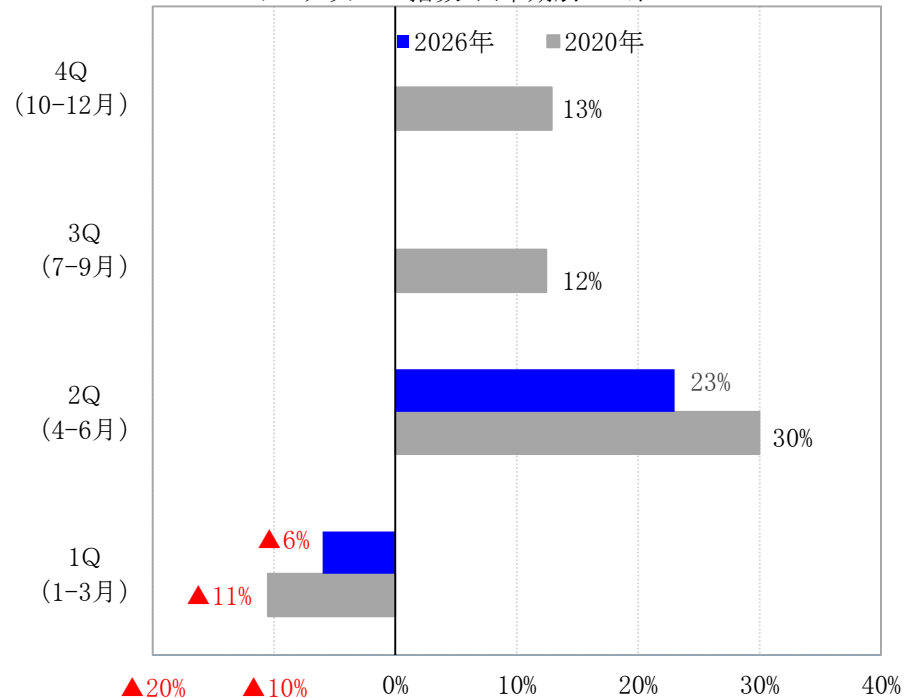
<ナスダック100指数>



各種資料より岩井コスモ証券作成 注：2026年2Qは6月24日時点

ナスダック100指数  
今年2Qまでのパフォーマンスは2020年と一致

<ナスダック100指数・四半期別パフォーマンス>



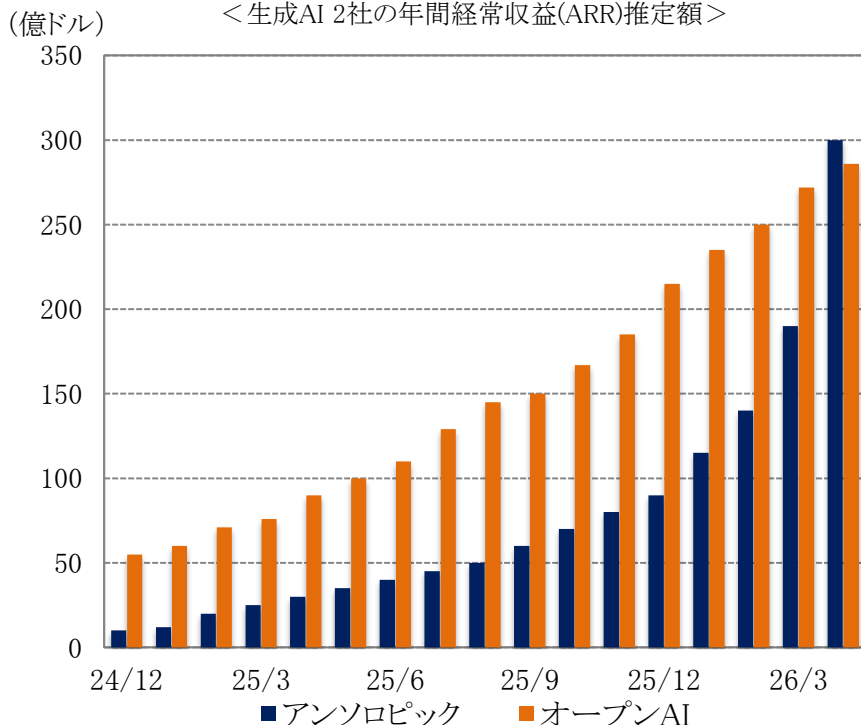
各種資料より岩井コスモ証券作成 注：2026年2Qは6月24日時点

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

- ・アンソロピックが26年発信した内部利用状況をまとめたレポートでは、人間だけで平均3.1時間かかるタスクが自社AIと協業することで平均わずか15.4分に短縮すると推計され、生産性の改善が確認されている。なお、生成AI新興2社間の競争では足下、アンソロピックの優勢が伝わってきている。
- ・巨額投資を背景に半導体・電子部品の値上がりが目立ち始め、サービス価格への転嫁も想定される。AIへの投資対効果の検証がより厳格化される公算が高いとみられる。寡占業界では売り手優位が続きそうである。

## アンソロピックの勢いが増し、オープンAIが劣勢か

&lt;生成AI 2社の年間経常収益(ARR)推定額&gt;



各種資料等より岩井コスモ証券作成

## 半導体から電子部品まで広範囲で値上がりが目立つ

&lt;米生産者物価(半導体及びその他電子部品)&gt;



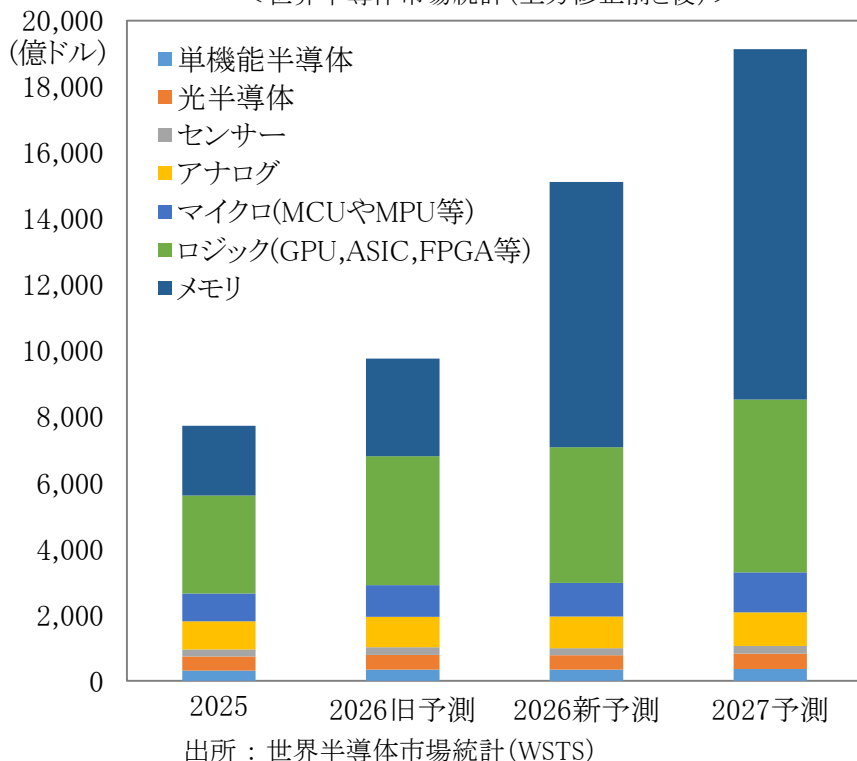
出所：米労働省(1984年=100)

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

- ・WSTS(世界半導体市場統計)が最新予測を発表。26年の世界の半導体市場規模は従来予想から大幅に引き上げられ、前年比+90%の1兆5,113億ドルと推計された。続く27年も1兆9,137億ドルへの高成長を見込む。
- ・上方修正の大半を占めたのが「メモリ」分野である。26年のメモリ出荷額は前年比+280%増(従来予測比+173%)の8,039億ドルへと、大幅な見直しがなされた。この需要急拡大の要因は巨大IT企業等による、AIインフラに向けた設備投資の急増である。

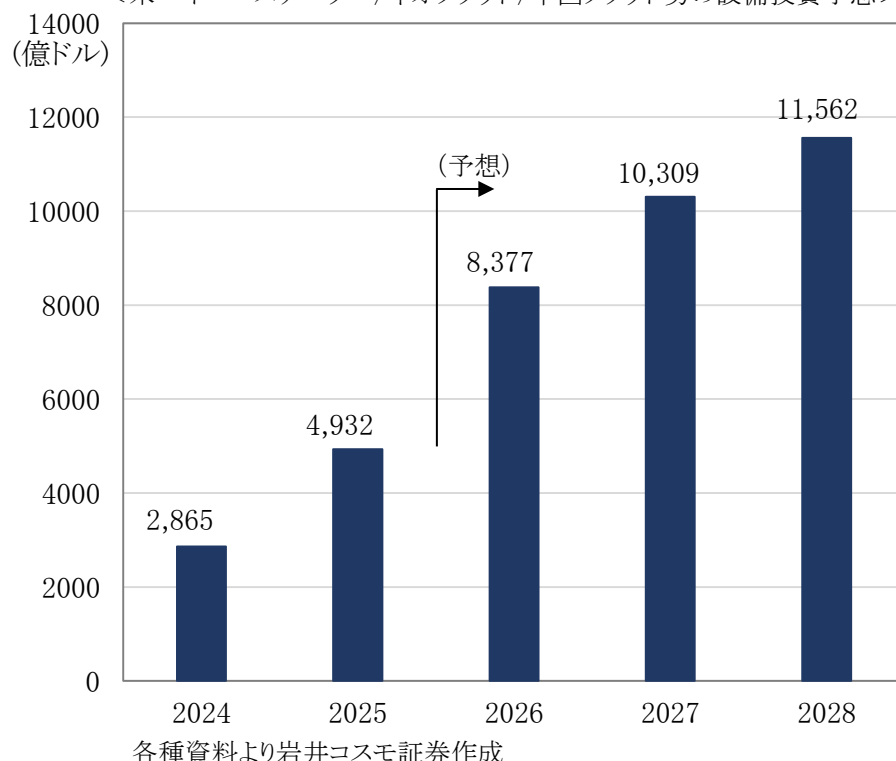
### メモリ需要の爆発的な拡大が全体の上方修正を牽引

<世界半導体市場統計(上方修正前と後)>



### ハイパースケーラー等のAI投資は今後も右肩上がり推移

<米ハイパースケーラー/ネオクラウド/中国クラウド勢の設備投資予想>

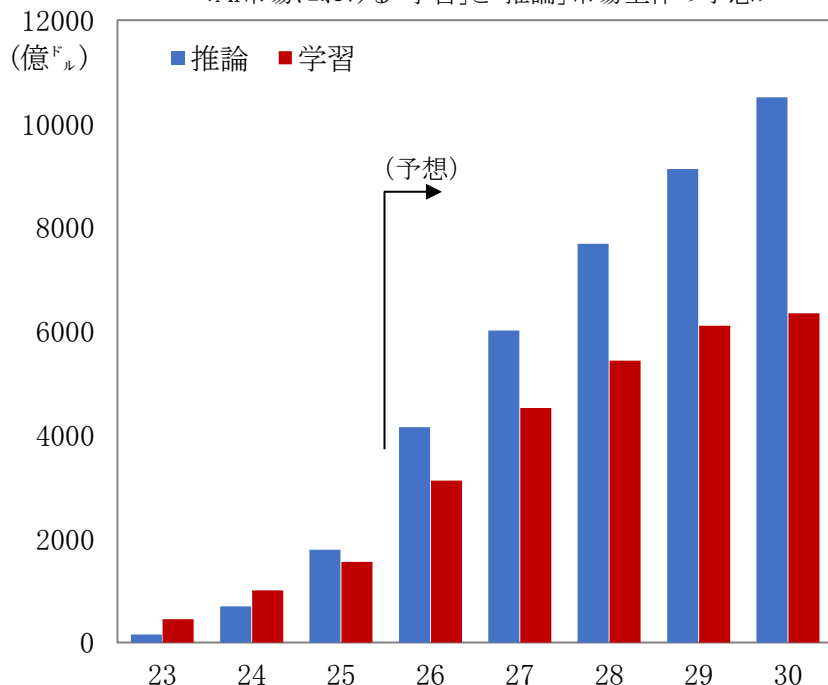


投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

- ・AI市場では、推論市場の規模が学習市場を逆転。長期の年平均成長率も推論が+42%、学習が+33%と予想され、AI市場の成長は推論分野が牽引していく見込み。
- ・サーバー向けCPU市場はx86シリーズを複占するインテルとAMDが全体の8割強を占める2強体制となっている。近年はそこに、ARMアーキテクチャ(ARMの設計図)を採用したエヌビディアやアマゾン等の新勢力が台頭しており、市場の多様化と競争が激化している。

## 推論市場が学習市場を逆転

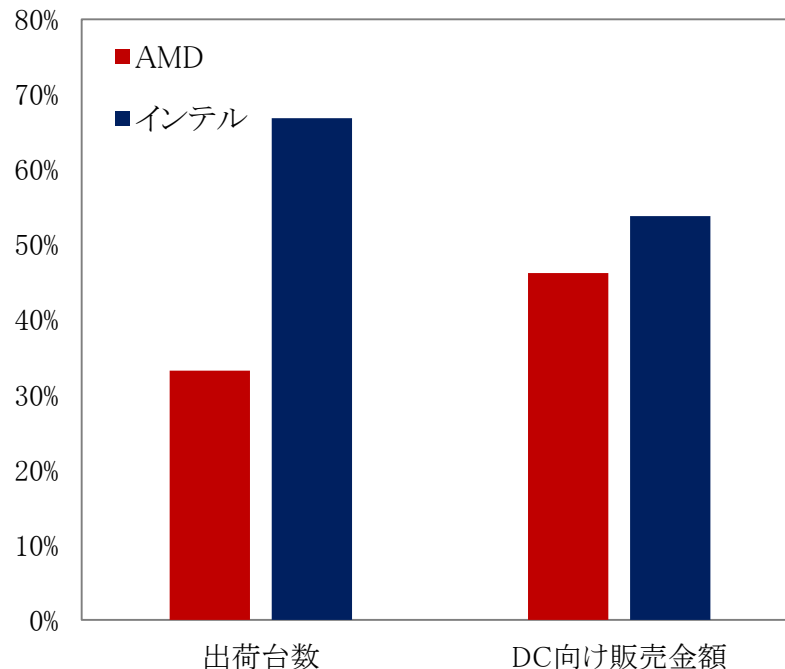
<AI市場における「学習」と「推論」市場全体の予想>



各種資料より岩井コスモ証券作成

## DC向け注力のAMDが販売額でインテルに接近

<2社複占CPU規格<x86>シェア>



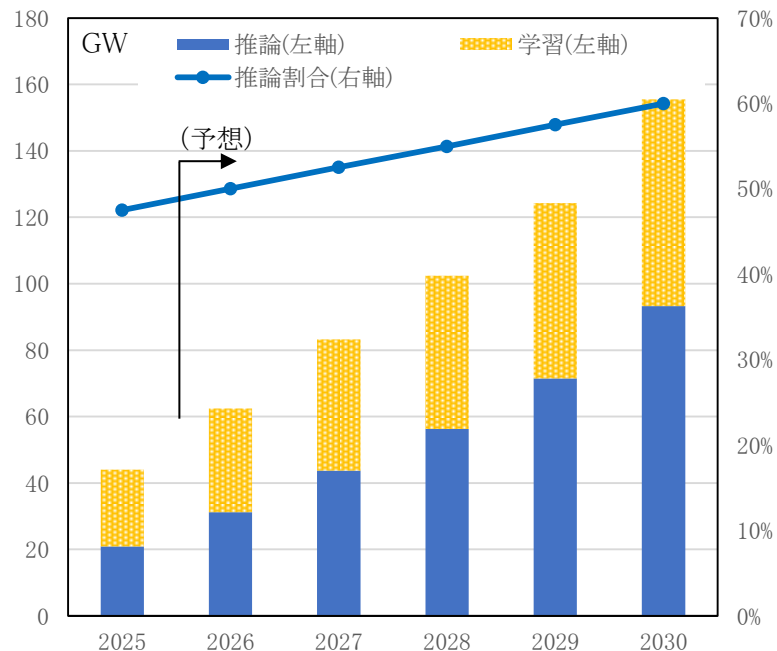
各種資料より岩井コスモ証券作成

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

- ・AI市場は「推論」の比重が高まり、2030年までに推論向けの電力消費がAIデータセンター需要の過半数を占める見通し。1ラックあたりの消費電力は、学習用(100~200kW)に対し推論用(30~150kW)は比較的少ない。電力制限がネックだった非ハイパースケーラー層(一般企業等)でのGPU導入加速が見込まれる。
- ・推論領域の拡大は、メモリ業界では汎用DRAMの新規需要を喚起される。メーカー各社による供給制約に加え、この推論向け需要が重なることで、DRAM価格のさらなる上昇が期待される。

## AI計算の「推論」の電力消費割合は拡大傾向

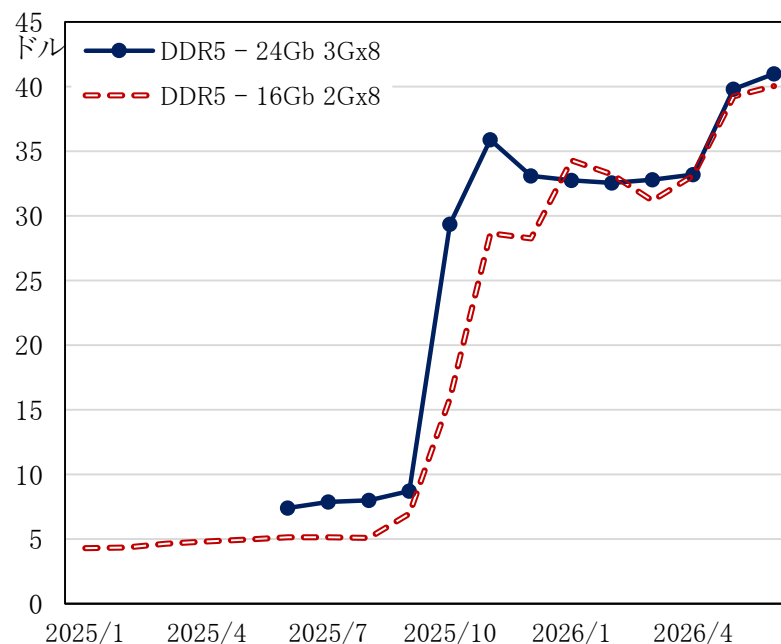
&lt; AI計算電力消費に占める学習と推論の割合 &gt;



出所：マッキンゼー&amp;カンパニー

## DRAM価格の高騰:タイトな需給に推論特需が拍車

&lt; DRAMスポット価格 &gt;



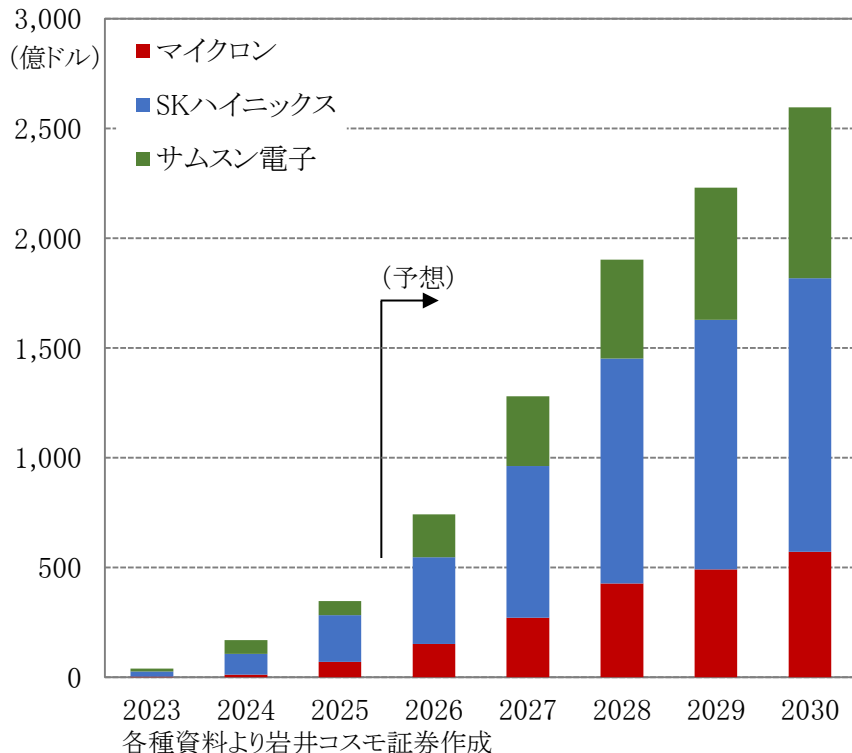
各種資料より岩井コスモ証券作成

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

- ・AI用GPU等を共に使用されるHBM(広帯域メモリ)は、DRAMチップを積層して数千の穴をあけ、垂直に電極を通して高容量化したもの。同市場はマイクロン、SKハイニックス、サムスンの3社の寡占が続く公算が高い。
- ・堅調なAIインフラ構築を背景に、HBM市場は25年の350億ドルから30年には2,600億ドルへ急拡大する見通し。なお最新予測では、次世代規格(HBM4やHBM5等)への移行が旧世代品の価格下落圧力を相殺し、GBあたりの単価は2028年にかけて上昇が続く見込みとなっている。

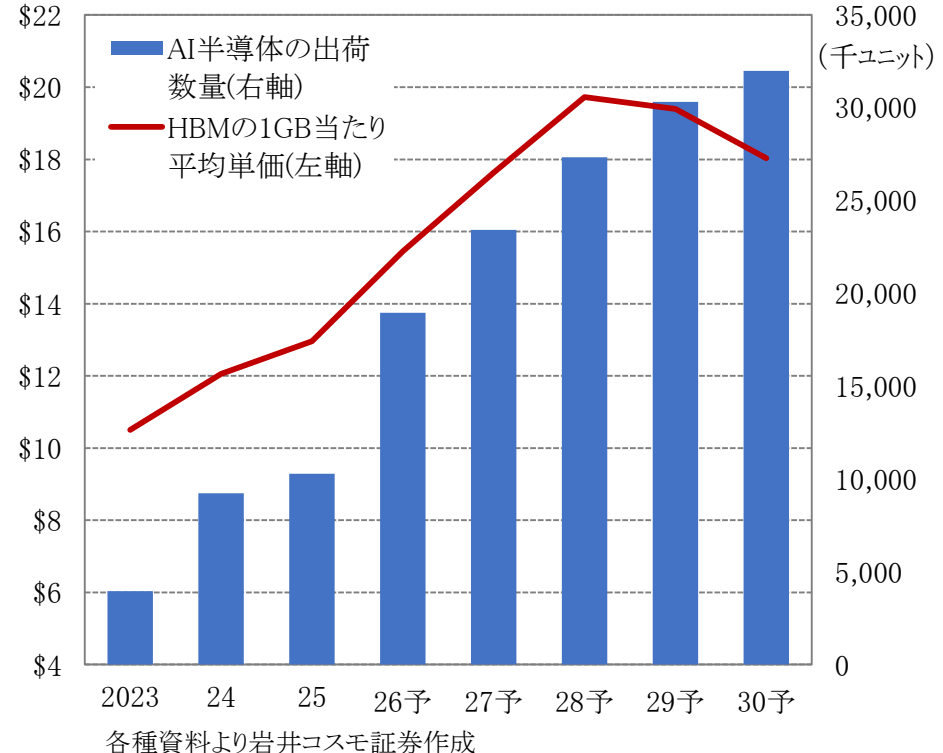
## 3社寡占が継続し、30年には2,600億ドル規模へ成長

&lt;半導体メモリ大手3社によるHBM売上予測&gt;



## 次世代品への移行を背景に単価も28年かけて上昇予想

&lt;HBMのメモリ当たり平均単価とAI半導体の出荷数量予測&gt;



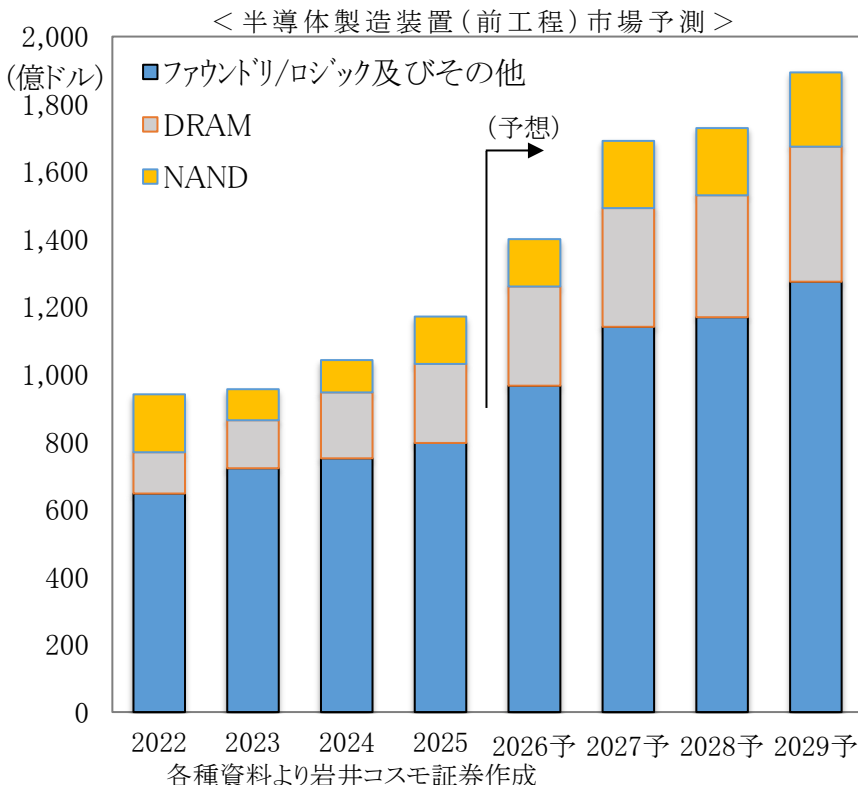
投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

- ・半導体受託製造業界では回線線幅を微細化した先端半導体の開発競争が活発化。AI半導体の需要は各社とも対応しきれないほど多い。このため回路線幅1.8nmの先端半導体の生産開始を発表したインテルは、テスラと提携する動きを見せるなど、台湾セミコンダクターの独壇場と言われた現状に変化が見られる。
- ・先端半導体(2nm半導体・HBM)量産体制で潤うのは製造装置メーカーであり、業界のもう一つの主役。現状は中国の駆け込み需要が一巡し、AI半導体、DRAM・NANDのメモリ向けの装置需要が盛り上がる見込み。

## 主要・欧米・半導体製造装置メーカー

銘柄名	競合企業 (主に日本企業)	主要製品・強み(上) 注目ポイント(下)
ASMLホールディングADR(ASML) *オランダ企業	ニコン キヤノン	<b>EUV露光装置(世界唯一)、DUV露光装置。露光分野で圧倒的シェア</b> <b>2nm世代の量産本格化に伴う高NA EUVの普及、AIスーパーサイクルによる成長</b>
ラムリサーチ(LRCX)	東京エレクトロ アプライド 日立ハイテク	<b>エッチング装置(世界首位)、成膜、洗浄。高アスペクト比技術に強み</b> <b>HBM4世代への移行、3D DRAM、2nm/GAA採用に伴うALD/ALE需要拡大</b>
アプライド・マテリアルズ(AMAT)	東京エレクトロ ラムリサーチ SCREEN ホールディングス	<b>成膜(CVD/PVD)、エッチング、検査、CMP。材料工学に強み</b> <b>GAA構造移行、ハイブリッドボンディング等の先端パッケージング、26年後半からの本格回復</b>
KLA(KLAC)	アプライド レーザーテック 日立ハイテク	<b>前工程検査・計測装置(圧倒的シェア)、歩留まり管理システム</b> <b>AI半導体・HBMの歩留まり向上需要、GAA構造移行に伴う測定装置の急増</b>

## AI半導体やDRAM向け伸び再び拡大期へ



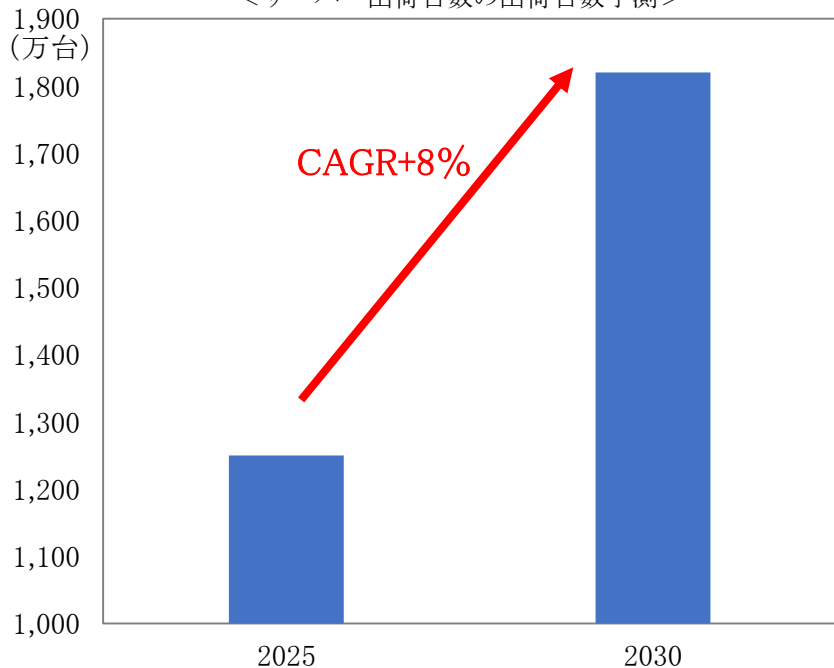
各種資料より岩井コスモ証券作成

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

- ・サーバー全体の出荷台数は25年の1,250万台から30年には1,820万台へと増加する見通し(年平均成長率8%)。AIアクセラレーター分野では、エヌビディアの他、AMD等の競合他社も成長が加速する見込み。
- ・サーバー単価は約50~60%をAIアクセラレーターが占め、次いでメモリが約30%を占める。高価な最先端チップの搭載比率が高まることで、出荷台数の伸び以上に「出荷額」が爆発的に増加する構造となっている。

AI需要に支えられ、年率8%の堅調な伸びの予想

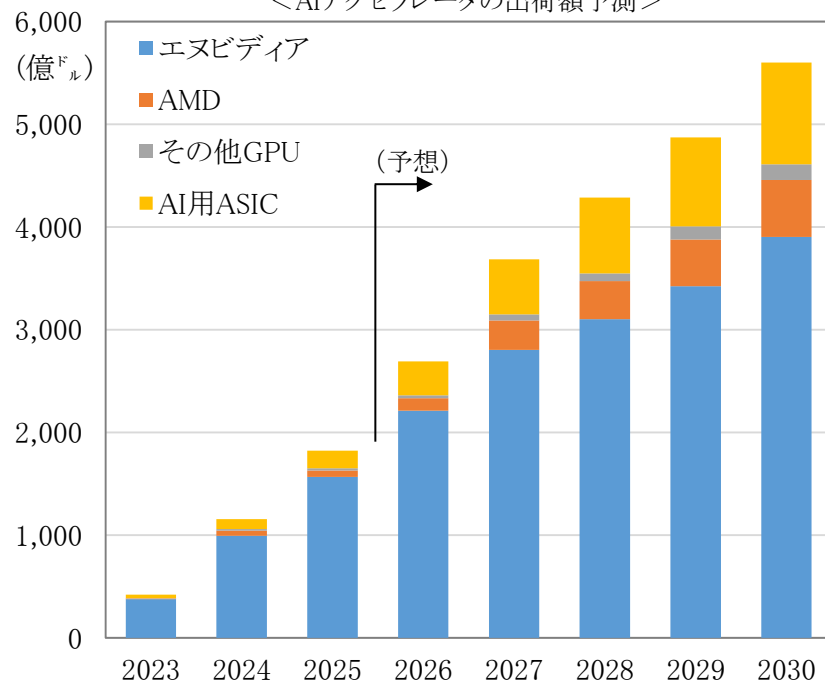
<サーバー出荷台数の出荷台数予測>



出所：ガートナー

AMD等の台頭も加わり、市場全体が力強く拡大

<AIアクセラレータの出荷額予測>



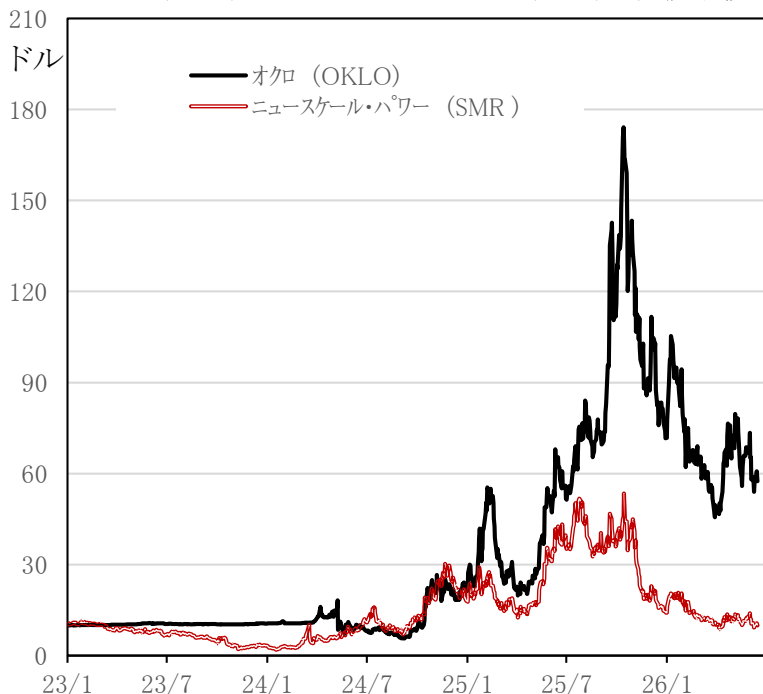
各種資料より岩井コスモ証券作成

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

- AI普及に伴い、DCの電力消費量は米国を中心に今後も急拡大する見通し。省スペースで設置場所の自由度が高い小型原子炉(SMR)は、この課題を解決する切り札として株価は見直しの余地が大きいと考える。
- SMRベンチャーのオクロは、米原子力規制委員会から5月に技術承認を獲得したほか、ニュースケール・パワーへの日米連携による巨額支援も報道された。トランプ政権による次世代炉向けの規制緩和(Part53)が完了し、普及に向けた政策面での追い風が強まっている。

25年の大相場を経て見直し買い時期が到来か

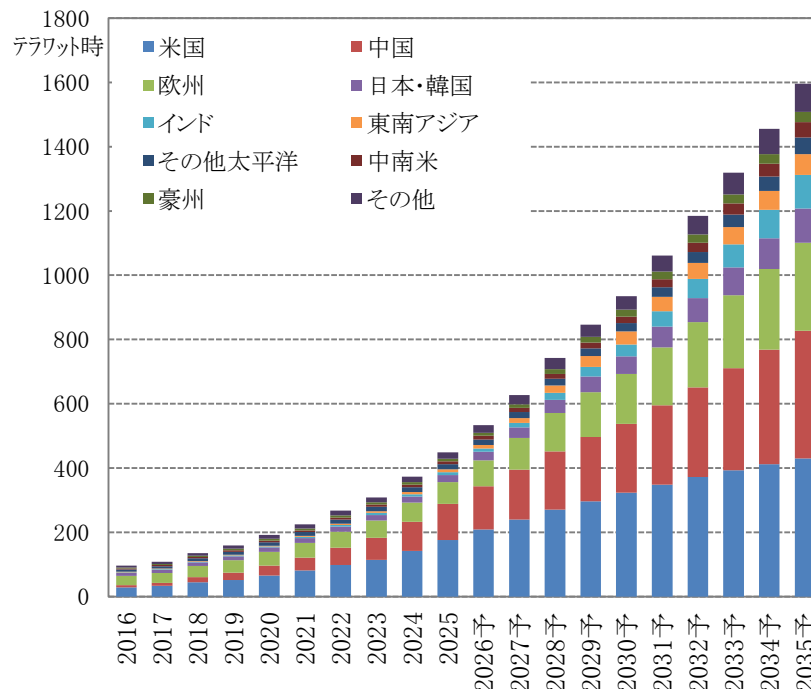
<オクロ(OKL)とニュースケールパワー(SMR)の株価推移>



各種資料より岩井コスモ証券作成

世界のDC電力需要は米国が圧倒的に牽引する

<世界のデータセンター電力需要予測>



各種資料より岩井コスモ証券作成

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

- ・急成長企業は過去や近い将来ではなく、一定の未来の業績を基準に評価すべきである。
- ・2030年業績予想を基に、類似企業比較法、マルチプル法で評価するとSPCXの理論株価は244ドルとなる。

**I 2030年の売上高**を予想

主幹事2社 (GS・MS) 平均 **4,000億ドル**

**II 2030年の部門別売上高**を予想/スペースX・発表のTAM (到達市場規模) の構成比に応じて配分

宇宙開発 **338億ドル**  
 通信 **1,470億ドル**  
 AI **2,192億ドル**

**III 2030年の事業別の**①純利益、②FCF (フリー・キャッシュ・フロー)、③EBITDA、を求めするため、部門別の類似企業データ(2030年・アナリスト予想・平均)を使用

		①売上高・純利益率	②売上高FCF率	③売上高EBITDA率
宇宙開発	RKLB	23%	20%	27%
通信	ASTS	47%	39%	86%
AI	GOOGL	38%	21%	65%

**IV 事業別・利益**を求める、IIで求めた2030年の**部門別売上高**にIIIで求めた**利益率**を掛けて算出

	①純利益	②FCF	③EBITDA
宇宙開発	77億ドル	66億ドル	93億ドル
通信	687億ドル	567億ドル	1,268億ドル
AI	834億ドル	461億ドル	1,427億ドル
合計	<b>1,598億ドル</b>	<b>1,094億ドル</b>	<b>2,788億ドル</b>

**V** バリエーションを算出、

	M6 (除・GOOGL) の平均を使用
予想PER	現在の株価÷2030年・純利益予想 <b>19.7倍</b>
予想PCFR	現在の株価÷2030年のフリーCF予想 <b>28.3倍</b>
予想PEbitdaR	現在の株価÷2030年のEBITDA予想 <b>12.6倍</b>

**VI** IVで求めた①純利益、②FCF、③EBITDAに、Vで求めたバリエーションを掛けて算出

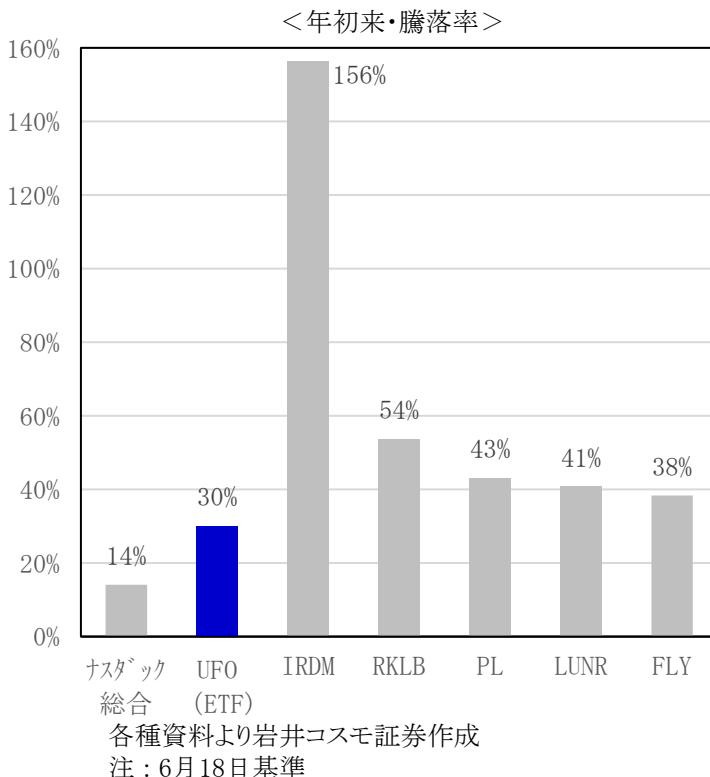
	①純利益	②FCF	③EBITDA	平均
時価総額	3.14兆ドル	3.09兆ドル	3.52兆ドル	3.25兆ドル
株価	236ドル	232ドル	264ドル	<b>244ドル</b>

各種資料より岩井コスモ証券作成 注：6月10日値基準

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

- ・スペースXは6月12日に1株135ドルでIPO (株式上場)。その後、株価は総じて堅調に推移(6月18日時点)。
- ・宇宙関連銘柄は、スペースXのIPO前は売りに押されたが、年初来では大幅に上昇している(下左グラフ)。
- ・うがった見方ではあるが、スペースXのIPOに合わせて複数のイベントが観察された(下右コメント)。1995年がインターネット元年であったが、2026年は宇宙元年ともいえるであろう。

宇宙関連銘柄の騰落率は高い



スペースXのIPOの歴史的な意義は・・・？

- ✓ **宇宙元年**  
1995年 インターネット元年  
2026年 宇宙元年
- ✓ **米国人の血が騒ぐ**  
第2の大航海時代  
ニュー・フロンティア  
第2のアポロ計画
- ✓ **不思議な好材料が相次ぐ**  
5/20 スペースX：目論見書 (S-1) 開示  
5/22 スターウォーズ・最新作・公開  
5/22 UFO関連機密情報・第2弾発表  
6/12 スペースX：株式上場  
6/12 ナスダック100・臨時・銘柄入替  
<RKL B・CRWV・NBIS・ALABを追加>  
6/12 H3ロケット6号機・打ち上げ成功

各種資料より岩井コスモ証券作成

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

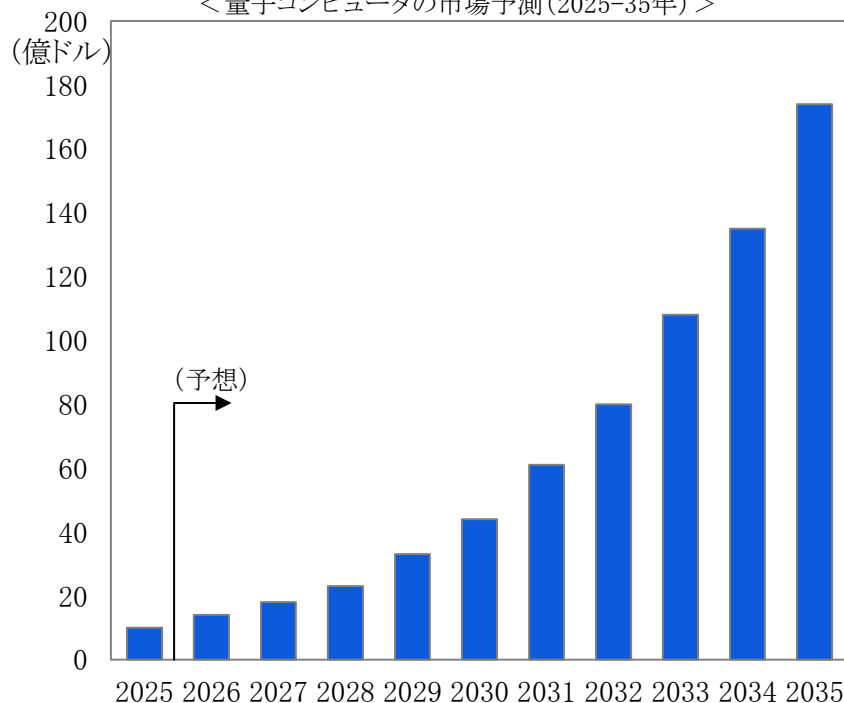
- ・IBMやマイクロソフトでは量子コンピュータの開発に注力しており、誤り耐性を備えた商用モデルの「2029年」の実用化(社会実装)をターゲットに明確に定めており、各社の開発競争が一段と加速している状況にある。
- ・米政府は次世代戦略インフラの覇権を握るため、CHIPS法に基づき関連企業へ総額20億ドルの資金提供を決定した。IBMの量子専門ファウンドリ新設など国家主導でサプライチェーン構築が進められている。

米政府が総額20億ドルを投じ、産業化を支援

企業名	CHIPS法 出資額	技術方式・ 業界での役割	概要・ビジネス展開
IBMアンデロン (IBM子会社)	10億ドル	量子チップ 専門ファウンドリ	米国初の量子専門ファウンドリ。国内サプライチェーンの中核を担う
グローバル・ファウン ドリーズ(GFS)	3.75億ドル	量産インフラ 新事業	量子技術の量産インフラ部門を構築。米政府が株式を約1%取得
クオンティニウム (QNT)	1億ドル	イオン トラップ方式	エラー耐性に優れるハード開発を主導。JPモルガン等と商用提携
リガッティ・コンピ ュティング(RGTI)	1億ドル	超伝導方式	防衛・政府機関の研究開発に強み。クラウド提供や金融領域でも提携
Dウェーブ (QBTS)	1億ドル	量子アニー リング方式	最適化問題に特化したマシンを提供。物流等でVW社と実証実験
アトム・コンピ ュティング (未公開企業)	1億ドル	中性原子方式	光ピンセットを用いた中性原子方式で、高エラー耐性と拡張性を目指す
インフレクション (INFO)	1億ドル	中性原子方式・ 量子センシング	量子計算のほか「量子センシング」分野に強み。SPAC上場も実施
サイクアンタム (未公開企業)	1億ドル	光量子(フォトニ クス)方式	既存半導体ラインを活用する技術で、100万量子ビット規模を目指す
ディラック (未公開企業)	0.38億ドル	シリコン量子 ビット方式	既存CMOSと互換性が高く、大規模化に有利なシリコン方式を開発

量子コンピュータ市場は依然、黎明期

<量子コンピュータの市場予測(2025-35年)>



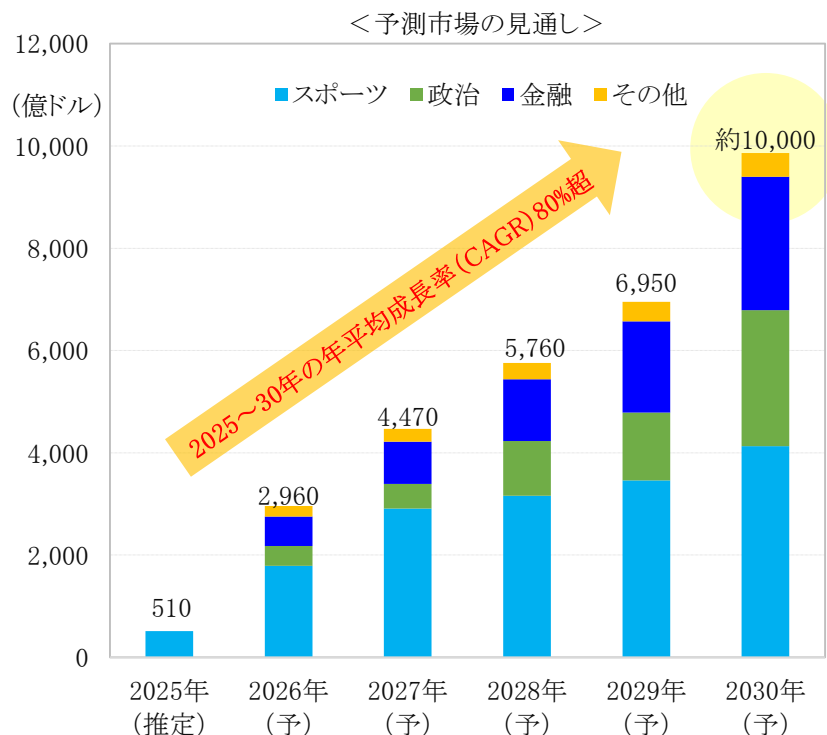
各種資料より岩井コスモ証券作成

Yole等各種資料により岩井コスモ証券作成

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

- ・現在開催中のFIFAワールドカップや11月の米中間選挙といった世界的イベントを追い風に、「予測市場」関連銘柄への投資妙味が急速に高まっている。
- ・世界の予測市場規模は2025年の約510億ドルから2030年には約1兆ドル（約19倍）へと急拡大する見通し。中長期的なメガトレンドとして今後の動向から目が離せない。

予測市場は今後5年で約19倍に拡大との見方



各種資料より岩井コスモ証券作成

米国市場の主な予測市場の関連銘柄

企業名	時価総額	前期売上高	年初来騰落率
ロビンフッド (HOOD)	875億ドル	44億ドル	-14%
手数料無料の証券取引アプリを展開。近年は暗号資産やイベント契約（予測市場）分野への展開を加速させ、新たな収益源として期待される。			
CMEグループ (CME)	839億ドル	65億ドル	-13%
世界最大級のデリバティブ取引所。先物・オプション取引の圧倒的な基盤を活かし、予測市場に関連する多様な金融商品やサービスを提供。			
コインベース (COIN)	395億ドル	71億ドル	-33%
米最大手の暗号資産取引所。Web3経済圏を牽引しており、ブロックチェーンを基盤とする「分散型予測市場」プロジェクトとの親和性が極めて高い。			
ドラフトキングズ (DKNG)	121億ドル	60億ドル	-28%
スポーツベッティングの米大手。W杯をはじめとする多種多様なスポーツイベントに対応した、圧倒的な予測プラットフォーム網が強み。			

各種資料より岩井コスモ証券作成 注：株価は6月24日時点

投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断で、今後、予告なしに変更されることがあります。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

## ■商号等

商号等： 播陽証券株式会社  
金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第29号  
加入協会：日本証券業協会

## 取引注意事項

### ■播陽証券の手数料及び投資リスクについて

- ①上場国内株券等委託取引の際には、約定代金に対して最大1.2265%（税込み、ただし最低2,750円）の委託手数料をご負担いただきます。
  - ②上場外国株券等委託取引の際には、約定代金（円貨）が7.5万円以下の場合は11.0%（税込）、7.5万円超50万円以下の場合は8,250円（税込）、50万円超の場合は最大で（約定代金の1.00%+2,500円）×1.1（税込）の委託手数料加算額、その他に現地取引所税等の取引手数料をご負担いただきます。
  - ③上場外国株券等店頭取引の際には、購入対価のみをお支払いいただきます。
  - ④投資信託のお取引の際には、下記の販売手数料及び信託報酬等の諸経費をご負担いただきます。
    - 販売手数料（購入価額に対して最大3.85%（税込））
    - 信託財産留保額（換金申込日、または換金申込日の翌営業日の基準価格に対して最大0.50%）
    - 信託報酬（信託財産の総資産総額に対して年率最大2.2%（税込））
    - その他、ファンドの監査費用等
- ◇株式や投資信託は投資元本が保証されているものではなく、価格や為替の変動により損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等やリスクは異なりますので、お取引の際には、契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読み下さい。

### ■免責事項

- 当資料は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としております。当資料で言及した銘柄や投資戦略は、投資に関するご経験や知識、財産の状況及び投資目的が異なるすべてのお客様に、一律に適合するとは限りません。投資判断の最終決定は、お客様ご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて播陽証券がお客様にご提供いたしますが、見解の正確性、完全性、適時性などを保証するものではありません。
  - ※本資料の情報の一部は、岩井コスモ証券株式会社より取得しております。
- 当資料の情報を基に投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、播陽証券は理由の如何を問わず、一切責任を負いません。